



入試への思い込み

セミの鳴き声とともに夏期講習が始まり、そして前期終了です。暑い中をみんな頑張ってよく来てくれました。今年は中学生も高校生もテニス部が多くて真っ黒になっています。蘇我中サッカー部の県大会ベスト4も素晴らしい結果でした。それにしても今年は暑い日が続きます。それを裏付けるように、ここ千葉で初めてクマゼミの「シャーシャー」という声を耳にしました。本来は西日本のそれも温かい地域に生息するセミが鳴くということは温暖化を裏付けることのように思えます。

さてその暑いさなかの7月31日に開かれた千葉県公立高校入試の今後の方針を決める「入試改善協議会」を傍聴してきました。しかし入試改善の具体案は示されず、少なくとも平成29年入試までは現行制度が続くこととなります。現中3と中2までは（ひよっとすると中1まで）今までと同じような制度であるならば、アドバイスしておきたいことがあります。それは受験生もその保護者の方も「入試はこうなんだ」と思い込んでしまっていることが結構多いということです。例えば現在の前後期制における前期入試の倍率です。1学区（千葉市）は人気公立高が多く、たいていは2倍以上の倍率です。「2人に1人しか合格できないのか、厳しいな。志望校を変えようか。」と考えるのは早計です。普通科の場合、前期で定員の60%の合格者を出すところが多いので、もし定員が100名ならば前期合格者は60名です。そこに120名の受験生があれば倍率は2倍となります。でも今までのデータをみると前期不合格でも後期で同じ高校を受ける人が多く、また急に後期の受験者が増えることはありません。ということはもし1回の受験なら1.2倍の倍率であり、決して高倍率ではありません。120人のうちの100人に入れるように頑張ればいいのです。少し勇気が出てきましたね。

「入試で何点取れば合格できるの？」という質問も、めやすは推測できますがその点をとれば合格できるとは限りません。毎年平均点は変動しているので、出題者ですらわからないことなのです！